

北條土人形 加藤廉兵衛さん

民話をもとに、ぬくもりの200種
「少し向こうに行かないと…」

2007年9月9日

語り手：加藤直子（手仕事フォーラム会員）

加藤廉兵衛さん（91）がつくられる北條土人形は、表情豊かで愛らしく、温もりに満ちています。因幡白兔や湖山長者、阿弥陀如来など、種類は200を超え、そのほとんどが高さ10cm以下と小ぶりですが、どれも皆、心に響く存在感があります。

廉兵衛さんは、1995（大正4）年生まれ。終戦を満州でむかえられ、帰国後、生まれ育った北条町（現・北栄町）に戻り人形づくりを始められました。最初は、楠の廃材、和紙などを材料にされていましたが、戦後のもの無い時代、天神川の土手の土に目をつけられ、土人形作りがスタートしました。昔ばなしや神話（古事記）、民話などを題材に下絵をおこしていきます。当時、民話を基にした人形はなく、廉兵衛さんが創り出したオリジナルの土人形は、鳥取民芸運動の父、吉田璋也氏の目に留まりました。東京の民芸品店でも扱われ、全国的にも人気が広がり「れんべい人形」とも呼ばれ、今も親しまれています。吉田氏との出会いで、作るうえでの迷いが無くなり、自信になったそうです。あるとき「唐三彩のような三彩人形を作ってみてはどうか」と提案され、「はい、作ります」と答えられたそうですが、納得いくものが出来ず、吉田氏が亡くなり35年近く経つ現在も試行錯誤を続けられています。人形づくりは、ずっとすぐに出来上がるものと、色の具合や動きなどが決まらず、なかなか形にならないものがあるそうです。



以前は、工房の周り一帯は、田んぼに囲まれ静かだったそうですが、今は広い道路が出来ました。そして、当初、「一生かかっても使いきれない」と思っておられた、工房近くを流れる天神川の土手の土も、護岸工事でとれなくなりました。こうした環境の変化、そして暮らしの変化は仕事の中にも反映してくるそうです。「今の感覚で作ると本来の郷土玩具にならない。少し向こう（かつての素朴ながらも豊かな暮らしの時代）に行かないと…」という言葉が印象に残りました。

廉兵衛さんは、「自分だけ満足しては駄目、見た人の心に共鳴しなくては」と、60余年お仕事を続けておられます。私は、元気を無くしてしまったとき、北條土人形のふくよかな笑顔、語りかけられているかのような眼差しに何度も心救われました。

新しい人形が出来たとき、「あー、出来た」というそのときが、本当にうれしく、楽しいそうです。そうおっしゃる廉兵衛さんの顔が、私には、好奇心いっぱいの少年のように、きらきらと眩しく輝いて見えました。



「少し向こうに行かないと…」

鳥取の手仕事

民話をもとに、ぬくもりの200種
北條土人形 加藤廉兵衛さん

加藤廉兵衛さん（91）がつくられる北條土人形は、表情豊かで愛らしく、温もりに満ちています。種類は200を超え、そのほとんどが高さ10cm以下と小ぶりですが、どれも皆、心に響く存在感があります。

廉兵衛さんは、1995（大正4）年生まれ。終戦を満州でむかえられ、帰国後、生まれ育った北条町（現・北栄町）に戻り人形づくりを始められました。最初は、楠の廃材、和紙などを材料にされていましたが、戦後のもの無い時代、天神川の土手の土に目をつけられ、土人形作りがスタートしました。昔ばなしや神話（古事記）、民話などを題材に下絵をおこしていきます。当時、民話を基にした人形はなく、廉兵衛さんが創り出したオリジナルの土人形は、鳥取民芸運動の父、吉田璋也氏の目に留まりました。東京の民芸品店でも扱われ、全国的にも人気が広がり「れんべい人形」とも呼ばれ、今も親しまれています。吉田氏との出会いで、作るうえでの迷いが無くなり、自信になったそうです。あるとき「唐三彩のような三彩人形を作ってみてはどうか」と提案され、「はい、作ります」と答えられたそうですが、納得いくものが出来ず、吉田氏が亡くなり35年近く経つ現在も試行錯誤を続けられています。人形づくりは、ずっとすぐに出来上がるものと、色の具合や動きなどが決まらず、なかなか形にならないものがあるそうです。

以前は、工房の周り一帯は、田んぼに囲まれ静かだったそうですが、今は広い道路が出来ました。そして、当初、「一生かかっても使いきれない」と思っておられた、工房近くを流れる天神川の土手の土も、護岸工事でとれなくなりました。こうした環境の変化、そして暮らしの変化は仕事の中にも反映してくるそうです。「今の感覚で作ると本来の郷土玩具にならない。少し向こう（かつての素朴ながらも豊かな暮らしの時代）に行かないと…」という言葉が印象に残りました。

廉兵衛さんは、「自分だけ満足しては駄目、見た人の心に共鳴しなくては」と、60余年お仕事を続けておられます。私は、元気を無くしてしまったとき、北條土人形のふくよかな笑顔、語りかけられているかのような眼差しに何度も心救われました。

新しい人形が出来たとき、「あー、出来た」というそのときが、本当にうれしく、楽しいそうです。そうおっしゃる廉兵衛さんの顔が、私には、好奇心いっぱいの少年のように、きらきらと眩しく輝いて見えました。

連載・手仕事レポート INDEX

- Kuno×Kunoの手仕事良品
- 昔の物 今の物
- いただきます
- 隠岐國風土記
- 棟梁のよもやま噺
- 鳥取の手仕事

手仕事フォーラム 会員募集

手仕事フォーラム BLOG

手仕事フォーラムのメンバーが毎日更新中!